

令和5年度 第2回堺市立図書館協議会	
令和5年8月24日(木) 10時30分～ 堺市立西図書館 2階 ラーニングスペース	
委員	中川幾郎会長、小松清生委員、是住久美子委員(リモート参加)、 飛石隆男委員、山尾真弓委員、吉田富美委員(リモート参加)、 吉原極委員、米澤昭子委員
欠席	森美由紀副会長、松原茂樹委員
事務局	浦部中央図書館長、南中央図書館参事、松好中央図書館総務課長補佐、 江口中図書館長、杉本東図書館長、佐久間西図書館長、三藤南図書館長、 眞鍋北図書館長、田中美原図書館長、白川主幹兼図書館サービス係係長、 輔信企画情報係係長、稲野企画情報係員、田代企画情報係員
傍聴	5人
案件	・令和4年度堺市立図書館サービス評価(案)について ・令和5年度 各区取組目標と取組内容について
その他	他機関・他団体との連携について(意見交換)

署名委員の決定
山尾委員 米澤委員

案件について	
発言者	内容
事務局	令和4年度堺市立図書館サービス評価(案)について説明
会長	ご意見があれば挙手をお願いします。
委員	評価案について、私たち専門家でない者が評価をするのは、とても負担感があった。もう少し市民の声が反映するような仕組みがあればよかったのではないかと。図書館協議会は、よりどんな図書館にしていくのか、現状がどうなっているのか、もっとフラクにいろんな立場から話ができないか。
委員	小松委員に同意する。図書館の運営に関して分からず、元司書の方の意見を参考に評価を書いた。

	<p>また、資料費をもう少し増やすようにしてほしい。読みたい本がすぐ読めないという話を聞く。</p>
委員	<p>初めて評価をして、正直難しいと感じた。この評価を見る中で、図書館について改めて知る機会になったので参考になったと思う。</p> <p>資料2「令和4年度図書館サービス評価（案）へのご意見・ご質問まとめ」の中で、図書館主催事業の参加者の人数はどれくらいだったのか、という質問の回答として、こども対象の事業を除いた図書館主催事業の参加人数は1536人、低年齢児を除いたこども対象とした事業の参加人数は1739人であった、と回答があったが、正直これが多いのか少ないのか、また教えていただきたい。</p>
委員	<p>1期2年務めた中で、図書館は館長筆頭に、いろんなことを考え、いろんなことに取り組んでいると思う。そんな中で、例えば、資料や電子書籍、コンビニエンスストア連携サービスについてのPRは、全てHPやX(旧Twitter)で広報しているということである。しかし、本当にこの2年で感じたのは、いいことをしていても知ってもらえないと意味がない。令和4年度にいろんなことをやり始めているので、ぜひホームページのアクセシビリティを、X(旧Twitter)を含めてもう少し努力してほしい。いかにもっとみんなに知ってもらえるか。知ってもらえればと思う。</p>
委員	<p>全体的に各館が様々な取り組みを実施し、改善をしているということ、続けていることがわかったので、すごく評価したいという気持ちがある。しかしながら、ボリュームが多く、委員の皆さんはとても大変だったのではないか。また、図書館協議会の大半がこの評価になってしまっているのが残念だったという気持ちがあったのではないか。</p> <p>取り組み状況について、まだまだ市民の方にやっていることが伝わりにくい。今までの広報手段では、なかなか上手くいかないというところがある。これからPRや、実施した結果のアウトプットだけではなく、アウトカムやインパクトなどをもう少し重視して、今まで図書館を使ってこなかった方に、どういう風に響いていくのか考えていけるとよいのでは。</p>
委員	<p>評価をするのが難しいと思う。HPやX(旧Twitter)で広報していると書いてあるが、図書館を利用しない人がわざわざ見るか。図書館の取り組み</p>

	<p>を、どうやって図書館を利用していない人に伝えていくのか、すごく難しい。</p>
会長	<p>追加の発言はあるか。 (追加の発言無し)</p> <p>総じて、評価するということについては、戸惑いがすごくある。これをどうしたらいいか、ということであった。皆で考えてみたいと思う。勤務評定をするような雰囲気、すごくストレスを感じていると思う。評価をするという前提として、価値概念、つまり何をもって何を評価するか、ある程度トレーニングや研修を受けた方がよかったかもしれない。委員に、いきなり評価をしてくださいというのでは、感想を述べるしかなかったかもしれない。どこがどうよかったのか、立ち入った討論が必要かもしれない。私は、委員同士の相互認識を深めるための会議があってもいいのではないかと思う。何をもって評価するのかわかりません、という方へ、新年度はぜひともそういう会合を用意した方がよいのではないか。</p> <p>今の是住委員の評価は、むしろ図書館経営者としてよくわかっている上での高い評価をくださったと思う。実は私も図書館の努力に対して、すごく高い評価を差し上げているが、後ほど申し上げたいポイントが2, 3件ある。それについて皆さんのご意見をいただきたい。次の課題としてペンディングしておいてはどうか。少し評価に対して戸惑いがあるということが、委員会の課題になっているということである。</p> <p>次に、令和5年度堺市立図書館サービス評価について、取り組みのご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>令和5年度各区取組目標と取組内容について説明</p>
会長	<p>ただ今の説明について何か質問はないか。なければ、コメントをいただきたい。</p> <p>なお、先程の令和4年度図書館サービス評価については、いただいたご意見が反映されていると理解してよろしいか。協議会の運営についての意見もあったが、それは今後の協議会の運営方針に反映するというところでご了解いただけるか。</p> <p>(全員異議なし。令和4年度サービス評価承認)</p> <p>今説明があったのは、令和5年度の評価原案についてのものである。コ</p>

	<p>メントをうかがっていききたい。</p>
委員	<p>令和5年の図書館の取り組みについて、一番思ったのは、知らなかった人にどのようにアピールするのかということである。</p> <p>また、電子書籍が最近進んでいるが、親としては電子書籍よりも紙の本で読んでほしいと思う。日頃子どもたちがスマホとかパソコンとかに触れてばかりで、せめて本くらい紙で読んでほしいと思う。</p>
委員	<p>この後の意見交換のところに関連してくると思うが、各館で目標を立て、それに向かってやっていくというのは、それでよいと思う。しかし、学校との連携があまり感じられなかった。これは各区の取り組みというよりは、全体での取り組みになるのかもしれないが、学校現場では今、ギガスクールや一人一台タブレットなど、すごく話題になっているが、全然そういうものが出てきてないのが気になっている。また、市の規模が大きいので、学校教育担当課とのテリトリーを飛び越えて、学校になかなか行けない雰囲気も感じていた。トップダウンの連携は難しそうなので、各区にある図書館とその区にある学校が地道に連携して良い事例を作り、広がっていくようなのはどうか。</p> <p>さきほど紙の資料も大事にしてほしいというお話もあったが、地域資料を電子化しているので、それをふるさと教育の教材として使っていただく案内を、図書館側から「こういう風に使えますよ」のように、提案していてもいいのではないか。</p>
委員	<p>平成30年度から比べると、全館利用者がダウンしている。個人的な意見だが、その中で、各館の令和5年度の目標について、本を読んでもらうための直接的な政策ばかりだと思う。令和4年度の初回で言ったが、不登校児童のこともある。先ほど是住委員が発言されたように、学校との連携で、何も直接的に本を読むという政策ばかりなのはどうか。やはり市民のための図書館であるので、残念だと思ったのは、学校との連携についてである。例えば、不登校児童を受け入れる政策があったりしてはどうか。和歌山市がやっているように、ティーンエイジャーとか子育て世帯を集めたければ、今時の若者は正直、古い建物には来ない。例えば、京都市左京区にある岡崎にこの前できたこども園も、きれいになってカフェがある。そういった来てもらうための政策がない。本を読んでもらうためにデジタル</p>

	<p>化ばかり、というのが気になっている。</p> <p>まず集めるために周知を行い、集めて知ってもらって本を手取る、という流れなので、本を手取る直接的な政策ばかりなのが気になる。</p>
会長	<p>ただ今のお三方のご意見に対して事務局より発言はあるか。</p> <p>(発言無し)</p> <p>先に進める。</p>
委員	<p>感想になるかもしれないが、区ごとにそれぞれの特色を活かした取り組みを考えている、ということがよくわかった。本校も北区に学校があるが、3年生も北区の図書館を利用し、図書館見学といって図書館の裏側のお仕事を見学する経験をさせてもらった。</p> <p>私自身読書が好きなので、本を読んでいるが、実は今回、この会の前に西図書館へ久しぶりに足を運んだ。まず図書館に来なくなった私の理由としては、あまりきれいな状態の本ではなかったので、やはり図書館で本を借りるのは嫌だと思い、なかなか自分自身の本を借りることはしなくなった。教員時代は、絵本の読み聞かせをしたいと思い、大きな絵本を借りによく来ていた。</p> <p>今年度の目標の中で、ティーンエイジャー、青少年という若い世代に、いかに本を読んでもらうのか、図書館利用をしていただきたい、ということを考えているということはわかった。しかし、先ほど吉原委員からあったように、いかにそんな人たちが来るか、やはり、きれいなところだとか、カフェを併設しているところだとか、何かプラスアルファがあると10代、20代の方たちは来やすいのではと思った。</p> <p>また、中区で、教育に携わる人の利用アップ、教職員のニーズにマッチしたとあったが、では、そのニーズはどのようにして聞こうと考えているのか。</p>
委員	<p>各館に資料の分担があるということである。私も西図書館に行くと医療の本が多いと前に思った時に、資料分担があるということを知った。では、他の図書館ではどうなのかということが知りたかったが、私はどこで調べたらいいかかわらなかつた。今回もらった図書館の概要であれば、どのページに載っているのか。今見たが、それも見つけられない。自分の近くの図書館にはないけれども、西図書館に行けば医療の資料が沢山あるとい</p>

	<p>うことがわかると、足を延ばして行くこともできる。自分の近くの図書館にないから、資料が少ないと思うのが大半ではないかと思う。こういうこともアピールしてほしい。</p>
委員	<p>どの館でも地域の歴史文化を大切に資料の普及や情報発信などと書かれていてありがたく、本当に大事にしていきたい。</p> <p>しかし、図書館の姿勢として情報収集をする、紙も電子図書も行うというだけではなく、その情報収集や発信の仕方を含めて、市民と一緒に、市民の力を借りて高めてもらいながら、市民としての力をつけていながら、という方向が足りないのではと感じる。</p> <p>学校との連携にしても、学校は小学校 3 年生で図書館の勉強をする時は関わるけれど、それ以上はなかなかできない現状がある。その中で、図書館と一緒にやってよかったと実感してもらうことのできる取り組みとは、どうしたらいいのか。現場の先生方と連携して真剣に方向を作っていくていただきたい。</p>
委員	<p>各区の図書館で工夫して、いろいろ取り組まれている。学校の連携や図書館を紹介する動画、中学での図書館見学など、いろいろ工夫しているのはよくわかる。しかし、やっていること自体が、図書館利用者以外に情報が上手く伝わっていない、発信されていないということで、広報活動等をもっと具体的に考えていかないといけないと思う。</p> <p>吉原委員が PTA、教育界ではいろんな発信ができるが発言された。子ども会でもネット等いろんな取り組みがあれば、LINE やメールで発信、各会員に発信できる。また融合していただき、情報発信でどういう風に取り組んでいることを伝えるかということ、もう少し具体的にやっていった方がいいのではないかと思う。</p>
会長	<p>では、令和 5 年度堺市立図書館サービス評価についてはここまでとする。</p> <p>米澤委員からご指摘があったが、一委員として意見をいうと、各区の図書館ごとの課題、現状と課題が書かれているが、そのバックデータが一体どこにあるのかというのが気になった。特に、社会教育の世界でいう要求課題と必要課題。その内、必要課題を各館の経営当局は、どのように把握しているのか。それは、求められているとか、何々の課題であるとかポン</p>

ポンでてくるが、これは、書いている人の主観的な皮膚感覚で書いているのではないか。それは、非常に非科学的である、と言わざるを得ないところがある。なぜ、そのような課題が出てきたのかということ、やはりデータを示す必要があるのではないか。

全館共通で、学校との連携、あるいは、青少年のいわゆる需要喚起ということが大きなテーマになっており、子どもあるいは子育て世代にターゲットされている。このような共通の問題認識を持っているのは、現場の方々の問題認識をそのまま反映されていると思うが、であれば、そのデータはどこにあるのか。区ごとに少しずつ違っているはずだと私は思っている。失業者が多いところ、あるいは、高齢者が多く慢性病の患者が多いところ、あるいは、中小企業が多く中小企業振興のための支援を求めているところなどあるはずである。しかし、それについての記述がないというのは、どういうことなのかと私は前から気にはなっていた。にもかかわらず、いわゆるテクニカルな図書館経営に対する危機感を非常に深く持っている。例えば、情報面での改革、SNSの利用であるなど、データ的な政策開発について危機感を持っているのか、それならばよしとする。

また、図書館経営におけるある種のサービス水準の維持、貸出の増加に関する方向性は間違っていないと思う。しかし、要求課題対応にそれはなっているのではないか。必要課題対応という点では、やはり薄いという気がするので、その辺りについて今後の検討課題にさせていただきたい。

そして、堺区だけの指摘であったが、行政需要課題に対してどう太刀打ちするか、問題認識を持っているが、他の区にはなかったのはなぜなのか。行政需要、行政課題について、図書館は重要な役割を持っている。例えば、議会議員の求めに応じてどれだけの対応ができるか、議会図書館とどう連携するのか、これは学校図書館との連携とも関係する。それらの記述がもう少し欲しかった。

最終的に小松委員が発言されたかったことではないのかと思うが、いわゆる、住民自治としての住民の図書館協力団体、住民自治としての図書館との参画協働システムはどれくらい動いて、地に足のついた形で展開されているのか、ということについてのデータ項目をした評価はないのか。図書館概要には1ページあるが、これは少し薄いと思った。これが私の個人的見解です。

他機関・他団体との連携について（意見交換）	
発言者	内容
会長	<p>次に、前回協議会で『もっと自由に議論できる時間を設定する』とした意見交換に移る。資料4をご覧ください。</p> <p>他団体との連携について、令和5年度堺市立図書館概要の37ページに協力団体が出ている。これ以外の他団体との連携というと、例えば、商工会議所、大学、他の福祉施設、病院などになってくる。図書館概要の上では、教育団体との関係施設しか見渡すことができなかった。それについて今後の記録面の補強をしていただきたいと思います。</p> <p>では、発言をお願いします。</p>
委員	<p>実は私自身関わっているため、正直に発言する。ボランティアとの連携について、3つ目に堺メモリ倶楽部があるが、一行くらいしか解説がなく、こんなに何もしていないのかと思う。例えば、図書館の100周年の時には協力し、すごく勉強して資料を提供して、ここに反映した。堺メモリ倶楽部の活動記録も出した。特に一番大きな仕事をしたと思うのは、堺大観写真集を出したことである。100年前と今と写真を撮り比べたりしながら、いっぱい勉強し、すごく面白く、役に立ったと思うが、あまり部数がなく、普及しなかった。しかし、これは市民と一緒に堺の宝物を表に出したという仕事をしたと思っている。</p> <p>今は、図書館にある写真やポスターをとにかく保存、記録、修理するというので、サポーターとしての仕事に追われている感じである。やはりそれでは、魅力がないので、メンバーは減り、高齢化していく。それが現状なので、市民と一緒に、歴史文化を大切にするというような面白い活動を今また募集すれば、また若い人が入って来てくれると思う。図書館として市民と一緒に堺の大事な仕事をしていこうよ、という姿勢をぜひ持ってほしい。自分たちが引き継いでいく上でも、図書館だからこそできる、そして、市民と一緒に堺を見直し、市民としての自治の力をつけていく、そんな大事な事業として位置付けていただければと思う。</p>
委員	<p>堺市子ども文庫連絡会は、図書館概要に記載されている。</p> <p>毎年、堺市子ども文庫連絡会は、子どもゆめ基金の読書講演会の実施を</p>



	<p>図書館と協力し、会場を貸していただいている。図書館まつりを、今年4年ぶりに実施したが、そこでも協力をしている。</p>
委員	<p>資料4の学校図書館支援では、私は校長として着任して3年目になるが、学校教育部が行う学校訪問同行ということ自体、私が着任してからなかったと認識している。もしこういった形で支援があれば、学校司書も助かる。担当する教員も、どのように配架して、子どもたちが手に取って本と出会うポップ作りなども支援があるとありがたいと感じる。</p> <p>団体貸出について、本校も利用しているが、学校に届く本が古いという点がある。教員自身も困ったと感じているので、子どもたちが手に取ってみたいと思う新しい本を揃えていただきたい。</p>
委員	<p>学校園の連携について、なぜ他市でできて堺市でできないのか。不登校は右肩上がりで上がっている。堺市もいろいろ対応されていると思うが、なぜ、横連携できないのか。市民からすれば、同じ市教委だと思う。堺市は、政令市の中で下から数えて6番目に小さいにも関わらず、ものすごく課が多く、横連携が取れていない。協議会委員として、学校教育部、学校と話をし、学校に行けないのであれば、不登校児を図書館で引き取るというのも一つの手だと思う。</p> <p>また、大阪府の社会教育委員も拝命しているが、大阪府が小学6年生の不読率、要は本を読まない率が2位である。中学3年生で全国1位の不読率である。漫画を除く本を読まない子がそれだけ多いということである。図書館だけが悪いわけではないが、それを踏まえれば、学校と協働して児童生徒を図書館へ連れてくるというのはどうか。不登校もそうだが、今、中学校の図書館が、学校の教員も働き方改革で学校図書館を週1回とか月1回しか開けてない学校もある。図書館と学校園との連携というのは、支援しているなど、いろいろ書いてあるが、踏み込んで学校の実情を知っていただき、図書館は図書館でできることをしていただかないと、と思う。</p>
委員	<p>他部署との連携について、内容については各部署行われている。子ども、親も含めて、青少年センターや体育館に併設されているところなど、出先の小さな利用しやすい図書館へは行くようであるが、中央図書館などの大きな図書館へ足を運ぶことがなかなかない。図書館に本はあるけれど、実</p>

	<p>際にどうしているのかということも、あまりわかっていない。先ほども発言したが、PTA 等もそうだが、子ども会も実施していることを発信することに協力できるのではないかと思う。</p>
委員	<p>他との連携の多さにびっくりした。小学校の図書館、図書室がいつも開いていないというのは、うちの子どもも言っている。特に休み前に借りに行くようだが、人気のある本はすぐなくなってしまい、面白い本が何もないと言っていることが多い。もう少し子どもに人気のある本を増やし、本に触れる機会を増やしてほしいと思う。</p>
委員	<p>資料を見て、堺市は歴史もあるので、文庫連絡会やおはなし会の団体など、長年図書館とやっておられるのは、よくわかった。どうしてもずっと図書館にいと、やってもらえるのが当たり前みたいに思うところがある。今一度、協力団体の方たちが、どういうモチベーションで協力していて、一緒に成長していくには、どうしているのか、ということを考えていけるといいのではないか。</p> <p>また、まちの課題解決に図書館が役に立つということを知ってもらうためには、これまで図書館利用していなかった、堺市の中でいろいろ課題を解決しようとしている団体との連携が必要になってくる。先ほどの不登校の子どもの支援も、いきなり全図書館でそれを受け入れる、というのは難しい。そういった団体と連携して、まずは試行的に実施し、それを確かめるなどしてはどうか。</p> <p>その点でも、やはり大学との連携がキーになってくると思う。堺市内にある大学だけに限らず、近隣の大学と連携していくことは、お互いにとってとても良い。田原市でも、隣の豊橋市にある大学との連携がすごく良くなっており、大学側もフィールドとしてデータを取りたいなど、そういった希望もある。図書館で実施できる、となると喜んでいろんな事をやってくださったりする。もちろん、図書館側の知見にもなり、サービスが展開していくと思う。特に堺市は、特徴的なコレクションがいっぱいあるので、それをこういう風に活用できるのだ、ということを一一般の方に知ってもらうためにも、そういった機関との連携が重要になってくる。</p>
会長	<p>事務局から何かあるか。</p>
事務局	<p>不登校の話だが、中図書館は教育センターと併設している。教育支援事</p>

	業ということだが、教育センターから連絡いただき、何かあれば、連携するという取組みは行っている。
会長	<p>一委員として私も発言する。</p> <p>まず、今いただいた意見のうち、学校との関係については、米澤委員の指摘があった。図書館概要の23ページに学校図書館職員連絡会、学校への選書支援とあり、このような事業を実施しているということだが、それを目撃した覚えがない。十分巡回しきれていないということではないか。</p>
事務局	<p>学校訪問に関して、学校教育部教育課程課から各学校に照会をかけ、そこで手をあげれば、その学校へ訪問するという形になっている。図書館としては、学校教育部が巡回訪問を行うので、図書館も一緒にどうか、という情報提供を受け、結果訪問を行うという立場である。基本的に希望のあった学校へ訪問する。それ以外にも、各学校から各区の図書館へ相談がある場合がある。その場合は、各区の図書館から訪問を行う。</p>
会長	<p>個人的私見だが、他の機関との連携の場合、福祉施設、病院等の連携はいかがか。図書館概要の中には記載がない。</p>
事務局	<p>西図書館は、医療分野の収集が分担となっている。堺市立総合医療センターと協力で講座を実施し、西図書館で発行したブックリストに対し、監修やエッセイ掲載の依頼をするなど連携を行っている。また、大阪府看護協会と連携し、定例の赤ちゃん向け読み聞かせ会「赤ちゃんといっしょ」とともに、希望者へ健康相談を毎月実施している。各区も保健センターとの連携は行っているが、西図書館では保健センターへ行き、多胎児サークルへ読み聞かせを行うなど連携している。</p>
会長	<p>では、図書館概要の中に記載するようお願いする。せっかく実施しているのに、それが載っていないというのは勿体ない。</p> <p>また、これは全体の議論の中で整理をしたいと思うが、図書館概要の20ページの子ども読書推進リーダー、ボランティア養成講座のメンバーは、団体自治側の要員と考えるのか、住民自治の担い手として自立をお願いするのか、どちらか。図書館行政のお手伝いをして下さる人と捉えるのか、子ども読書連絡会のような方々へ合流をお願いする、という感じでの繋がりをお願いしているのか。ボランティアスタッフというのは、非常に揺れている存在だと思うが、いかがか。</p>

事務局	<p>ボランティアの育成に関しては、図書館で行っている。その後、各ボランティア団体へ参加し、その中でどのような活動をするかということは、あくまでもボランティアの団体の方で、自律的にされると認識している。</p>
会長	<p>ここは非常に大事なところで、行政の補助的支援をお願いしますというボランティアならば、住民自治とはみなせない。この所、気を付けた運営をされた方がいい。というのは、下手をすれば、私たちは下請けなのか、という不満が溜まってくる。</p> <p>また、いかなる行政分野においても、図書館も同じであるので、団体自治と住民自治の二つがあり、この二つの両輪が上手く動いて、結果的に全体の自治の能力が上がる、というのが基本である。分かりにくいという人には、私はいつも消防の話をする。消防本部の機能を期待する時に、はしご車が欲しい、高圧放水車が欲しいと言うが、地元の消防団がしっかり頑張っていれば、普通規格の消防車が配置されていたら、ちょっとしたボヤくらい片付けてしまう。そうすると、消防本部に高規格の救急車みたいなを用意する余力が生まれる。いわゆる専門機能を持った消防署を配置する能力が生まれる。</p> <p>図書館も、私は一緒だと思う。住民自治による読書活動やこどもに対する読書サポート、ケアが、地域自治の活動でなされた場合は、図書館はそれをバックアップするところに、注力することができる。現実に地域に展開する必要がなくなってくる。地域の住民に直に役割分担ができる。</p> <p>福祉活動が盛んで、見守り活動とか声掛け運動とか盛んなところは、制度福祉に何でもかんでも押し付ける市民というのが減っていく。そうすると、訪問看護だとか訪問保健指導の要員が相対的に楽になってくる。そういう関係をもう少し描きやすくなるような図書館概要にならないか、という気が私はしている。</p> <p>実は、豊中市の図書館協議会の会長を11年したが、真っ先をお願いしたのがそのことであった。住民自治による図書館政策のバックアップをどれくらいしているのか、年報にもっと明確に出して欲しいとお願いをした。それをここでお願いしたい。それは例えば、子ども読書活動推進事業の場面でも、おはなし会、読み聞かせ会の場面でも、実際は子ども読書連合会の方たちをお願いしている。図書館の職員が自ら行けるのは、十分の一くらいだと思う。それから、ブックスタート事業の研修会場に行って、</p>

	<p>こどもに読み聞かせしているのも、市民ボランティアである。</p> <p>図書館が育成するボランティアと市民が持っているボランティア能力と、上手くミックスしていかないと、下手をすると喧嘩になりかねない面があるので、政策的に調整していただきたい。</p> <p>住民自治がしっかりしていたら、団体自治が楽になるので、図書館自らボランティアを育成することもなくなる。極端なことを言えば、話し合いをされてちゃんとしていれば、そういう関係がここでもう少し描けたらいいと思った次第である。</p> <p>そのため、図書館概要の記述でいう、子どもの読書活動推進事業というのは、団体自治の責任でなされているのか、住民自治の力を借りておられるのかが非常に重要な論点なので、お聞きした次第である。</p> <p>そうすると、例えば、図書館概要の7番、市民、地域、その他の団体との協働・連携というところの書き方についても、少し変わってくるのではないか。</p> <p>そういうことが、ここでは浮き彫りになってきたと思う。今後の検討課題にしていきたい。</p> <p>追加の発言があれば。</p>
委員	<p>先ほど学校園支援で本校の方には来ていないと発言し、学校からの希望によるということで大変申し訳なかった。その中で、学校教育部が主体であることに変わりはないのか、と感じた。学校教育部が希望をして図書館の方に一緒に行きませんか、と声掛けがあってから来校されるというような発言があったかと思う。学校教育部が主体ではなくて、地区の図書館の方から区の学校に、支援ありませんか、というような動きがあったのかどうか教えてほしい。</p>
会長	<p>学校教育部自体への周知と教育部のアクションと実体はどうか。把握しているか。</p>
委員	<p>学校教育部が主体で声を掛けているところに、図書館が乗っかっているイメージである。そうではなくて、図書館が自ら各学校にアナウンスしているか。</p>
事務局	<p>各区によると思うが、図書館から声掛けしているのはあまりないと思う。</p>

会長	<p>どちらから照会をかけているのか、社会教育部サイドから照会をかけているのか、学校教育部は協力している立場なのか。学校教育部が責任を持って実施するので、図書館、協力してくださいなのか、それを聞かれたと思う。アクションするスタートラインはどっちなのだということをはっきりしたい。</p>
事務局	<p>基本的に学校教育部が照会している内容は、学校図書館に対する巡回訪問である。これは、学校図書館職員に専門職員がおり、その職員が巡回するという前提である。教育課程課が設定している内容だが、各学校の状況の確認、心配事や悩み事など相談に応じるということで、校長先生や教頭先生、学校図書館職員でやり取りするという内容である。学校図書館職員の数が非常に減少しているのが現状で、巡回に対応できる数も限られている。図書館としては、すでにスケジュールの組まれたものをいただき、できる限り随行するという流れで、学校教育部が学校図書館に対してサポートするという形での訪問という認識である。</p>
会長	<p>学校図書館は学校教育部の所管で、堺市立図書館は、社会教育部の所管とそう考えてよろしいか。 (事務局肯定) そのため、少し仕切りが違う。その辺については委員にご理解を求める。</p>
委員	<p>図書館の見学が、西と南以外はほとんどゼロであり、コロナのせいかと少しびっくりした。今のことも含めて、各区の図書館の方から、ぜひ校長会などに働きかけ、図書館を子どもたちのために直接学びの場にしてほしい。そして、先生方の研修にも利用してほしい。司書からの応援もぜひ手を挙げてほしい、という発信をやってほしい。</p>
会長	<p>それでは、意見交換会は以上であるが、今後の図書館概要に反映できる中身が多かった。令和5年度以降の組み立て方、思考法をそのような形で整理していただきたいと思う。</p> <p>特に、今日出た意見のうち、要求課題と必要課題の峻別をせよ、ということである。要求課題ばかりよく分かっている。満足度という言葉を使うのが、要求課題に対してだが、必要課題については、どのような社会調査をしたのか。リサーチしていない場合でも、行政が持っている統計データ、いろいろデータを、図書館は情報の宝庫なので、使えるはずである。そう</p>

	<p>いうものを、ちゃんとバックにおいて、現状と課題を出していただきたいと思う。皮膚感覚だけでやる時代ではないと私は思っている。</p> <p>そして、ボランティアの問題も、団体自治の補助的ボランティアなのか、住民自治の担い手としての主体的なボランティアなのか、その関わり方について自ずと違うわけで、図書館が育成したボランティアと、住民自治側のボランティアと激突するような話はないようにしてもらいたい。そこで交わっていき、住民自治側の将来の担い手として育っていくような、そういう会を開いてもらう方が、むしろ自治としては健康だと思う。何でもかんでも住民自治に押し付けるのはずいが、住民自治がしっかりしていればしっかりしているほど、行政コストは逆に下がっていく。その下がったコストは社会への投資、あるいは、より専門的、より深刻な問題に触れることができる。そういう関係があることは、どの行政においても一緒なので、よくその辺のところを読み取れる図書館概要を作ってもらえないかと思う。</p> <p>以上で本会における案件は、すべて終了とする。</p>
案件終了	
事務局	<p>次回の開催は令和5年10月ごろに、案件は正副会長の選任ほかを予定している。</p>
閉会	